

教育魅力化（持続可能な教育生態系）－真庭 まるごと まなびの 庭－

1 前提

（1）真庭市総合計画

多彩な真庭の豊かな生活（真庭ライフスタイル）

（2）共生社会推進基本方針（共生の理念）

①誰一人取り残さない。②お互いを認め合う。③地域社会の中ではだれもが役割がある。

【参考】教育基本法

（生涯学習の理念）

第三条 国民一人一人が、**自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう**、その生涯にわたって、**あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる**社会の実現が図られなければならない。

- ▶人は体験や学びを通じて自分で育つ力をもっている。その姿を引き出し応援するのが教育
- ▶真庭市のめざす共生社会の理念実現は、生涯にわたって「学ぶ」こと「活動する」ことができる（応援しあう）社会の実現の中で推進

2 なぜ、教育魅力化なのか

暮らしにある幸せや豊かさがずっと先まで続く姿を教育の分野から描く

- （1）未知を拓き幸せな生き方を考え行動する「意志ある若者」が育つ
- （2）人を育むことを自分ごととして考え行動する市民運動をつくり、一生「居場所」と「出番」のある地域となる（地域学校協働活動）
- （3）協働を通して、子どもも大人も共に育ち合う（共育）

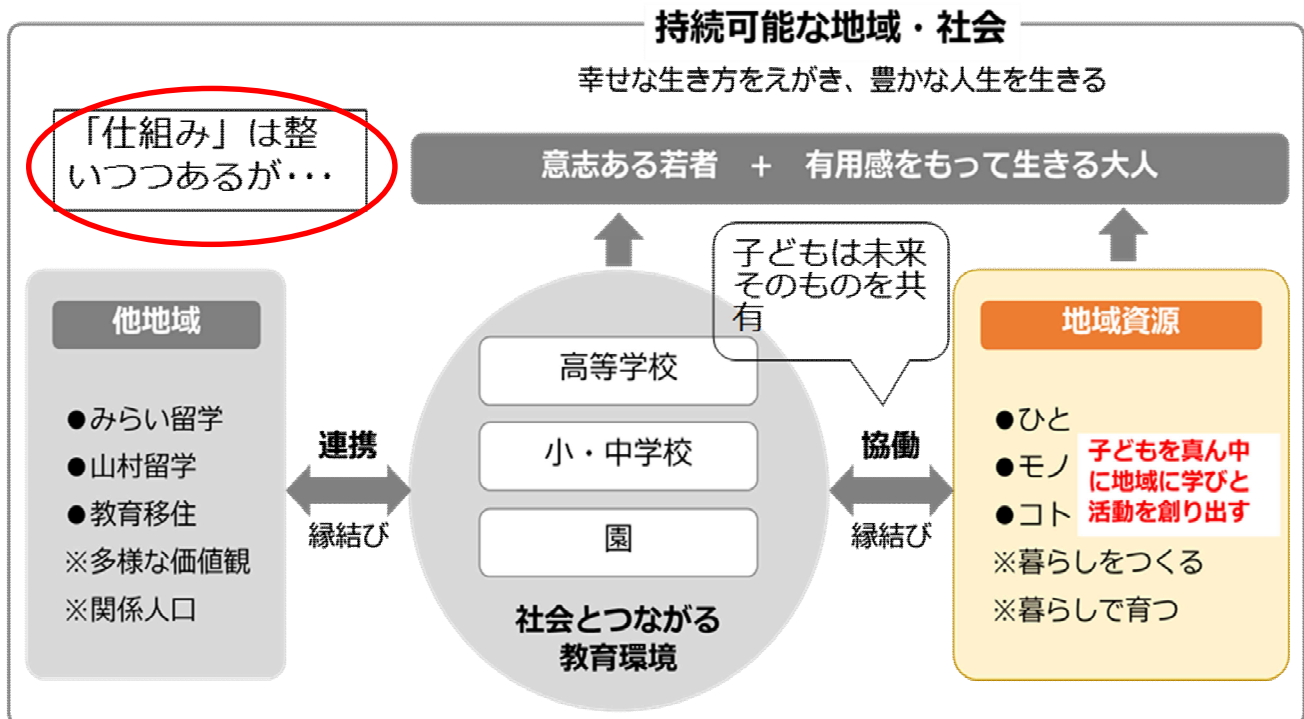


図1 全体イメージ

3 真庭の持続可能な教育生態系 – 「お客さん」からの脱却⇒決めるに関わり一緒に動く –

（1）持続可能

- ①自然（生活の土台）
- ②人（生活の主体）
- ③ジブンゴト（行動の主体）

▽「この地で学ばば豊かに学べる、この地で暮らせば豊かになれる」を創り出す

（2）教育生態系

– 持ち寄り・対話・協働・協創 –

- ①〔自己〕人が育つ基本は、様々な世界を体感し五感を通じて自分で獲得すること。
- ②〔多様性〕育ちを支えるヒト・モノ・コトは多様であること。
- ③〔関係性〕多様なもの（資源）のつながりの中で、育ちを支えること。
- ④〔連続性〕人の循環が生まれること。

▽「子ども自らの育ちを支えるヒト・モノ・コトがゆるやかにつながる居場所づくりや伴走支援を行うことで、人を育むことを自分ごととして考え行動する市民運動」を創り出す



図2 持続可能な教育生態系

(1) 学びと自治振興拠点（仮）

（2）どこから始めるか？

- ①子どもの遊び場への市民ニーズ
- ②子どもが真庭の今を豊かに生きる（今を楽しむ権利）
- ③子どもが生きる力を獲得する（非認知能力）
- ④多様な人が得意と知恵を持ち寄り関わる（学びと活動）
- ⑤大人のゆるやかなつながりが生まれる（コミュニティ）



真庭を生かして遊び（場）をつくる

※冒険遊び場は、すべての子どもが自由に遊ぶことを保障する場所であり、子どもは遊ぶことで自ら育つという認識のもと、子どもと地域と共につくり続けていく、屋外の遊び場。

▽「子どもが自由に遊ぶことを保障する」という目標は、世代を超えた学び、対話、行動を生み出す「つくり続けていく」ためには、人材育成と活動を支援する体制（中間支援）整備が必要

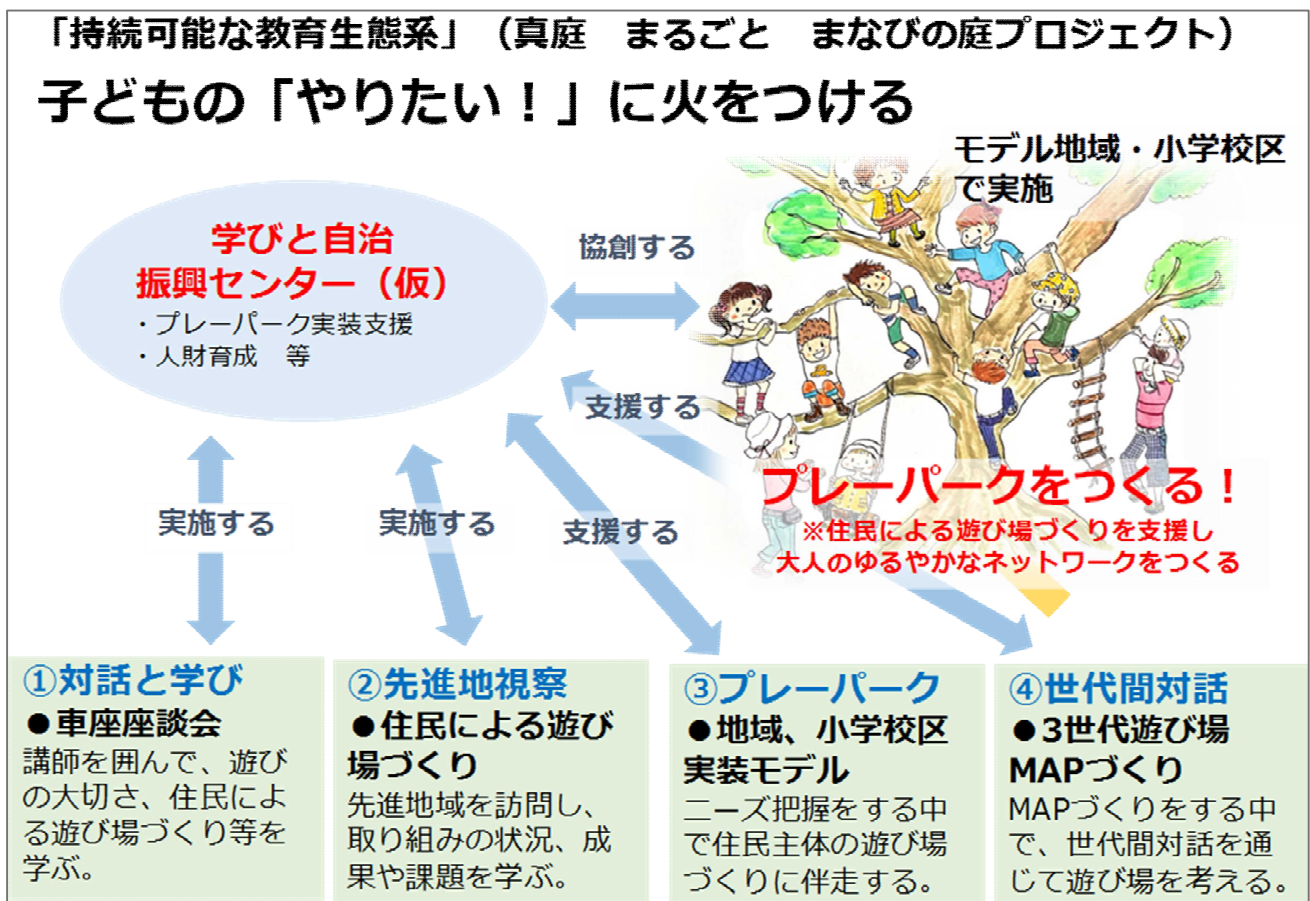


図4 住民によるプレーパークづくり

5 提案にかえて

（1）遊びの復権 –三方よし 子ども・大人・地域–

▽与えられる（便利 効率 消費 速さ）から創る（空間 時間 仲間 手間）へ

- 子どもが、遊びを通して今を豊かに過ごし、自分で育つ力を高める
- 大人が、子どもの幸せのためにつながり、遊びが生まれる環境づくりを進める中で育つ（意識を変えていく）
- 取り組みを通して、子どもを真ん中に地域内に自治が生まれ活性化する

「持続可能な教育生態系」（真庭 まるごと まなびの庭プロジェクト）

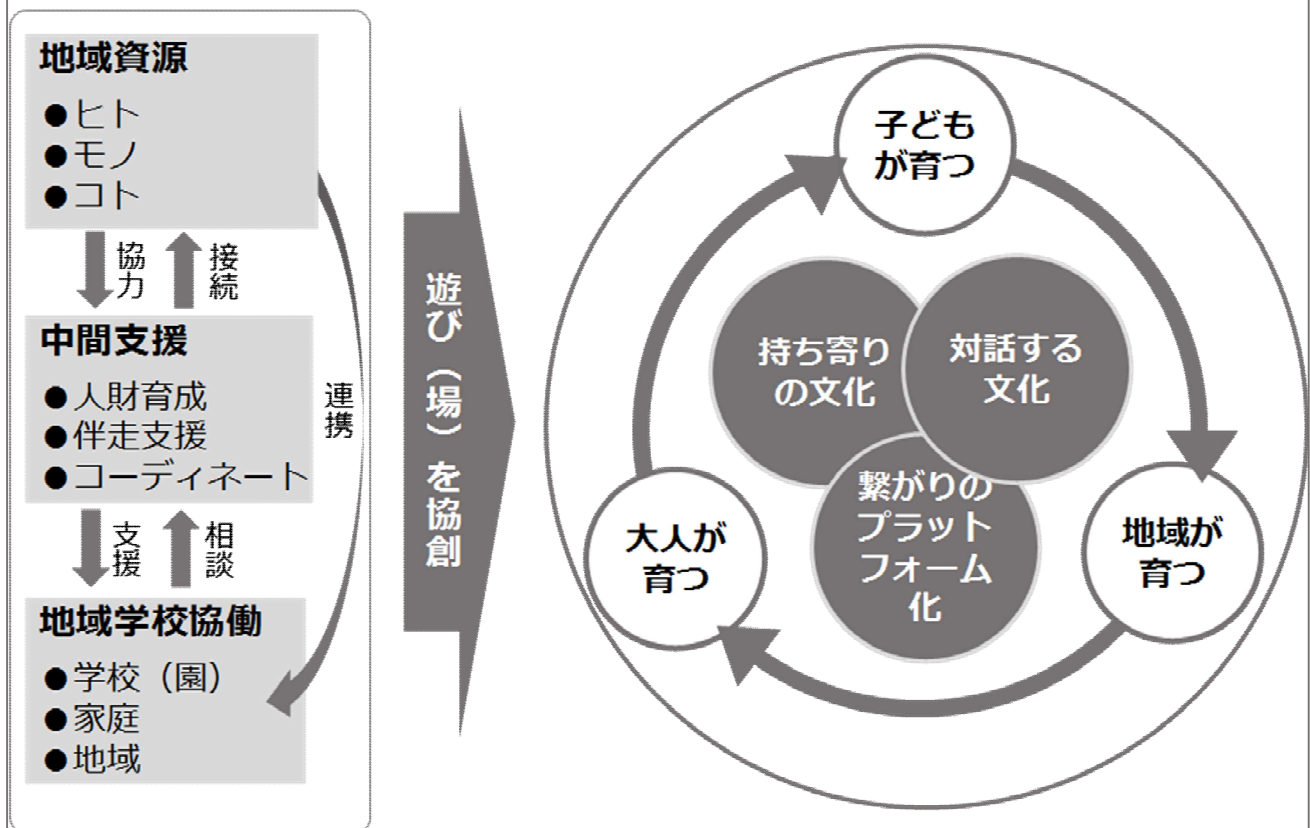


図5 遊び（場）づくりと地域づくり

（2）検討事項

- ⇒**子どもの遊び場づくりを中心として取り組みの方向性**
- ⇒**自立した市民活動を続けるためには、活動を起こし伴走する中間支援体制を構築し、継続することの共有（特に教育分野における中間支援という仕組みで収益性を望むことは困難…）**
- ⇒**教育魅力化全体（就学前から高校）を伴走支援する中間支援組織のあり方**

【参考資料】

▽**遊びの価値**…遊ぶこと自体が目的であり、成果・評価などの制約から自由

- ①自ら行う（主体性）
- ②自分の生き方は、自分で決める（判断）
- ③没頭することで育つ（想像力・創造力）
- ④挑戦する 失敗する 立ち直る（たくましさ・ねばり強さ）

▽**応援のあり方**…子どもたちは大抵のことは自分の力で解決し、乗り越える力を持っている。

挑戦や失敗を経験し自ら学びとる「自己学習能力」を備えている。

- ①子どもの自由な遊びを支える（信じ、見守り 可能性を引き出す環境づくり）

■「教育魅力化」全体を支える中間支援

- ①人材育成（保育職、教育職、地域学校協働推進員、指導員、プレーワーカー等）
- ②郷育（総合的な学習の時間）推進
- ③子どもハローワーク（やりたいことのマッチング）実装
- ③住民主体の遊び場づくり実装支援
- ④高校魅力化推進（地域協働、寄宿舎など）
- ※⑤山村留学 教育移住 保育短期移住…少子化・人口減対策